

令和6年度 文部科学省 現職日本語教師研修プログラム普及事業

留学生に対する日本語教師（初任）研修報告

実施機関名	一般財団法人 日本語教育振興協会
事業名	留学生対象の日本語教師初任者研修 プログラム普及事業
事業実施期間	令和6年6月～令和7年1月
研修受講者数及び 研修修了者数	研修受講者99名中 研修修了者89名



研修報告の構成

■ 事業全体の概要

1. 初任者研修の目的
2. 取組の内容
3. 実施体制、実施委員の構成

■ 各研修の概要

1. 研修の狙い・特徴
2. 求められる資質・能力と研修における教育内容の関係
3. 実施スケジュール・内容・教育方法
4. 連携体制
5. 募集方法
6. 受講者データ
7. 修了要件・修了率
8. 研修の様子
9. 研修中のフォロー

■ 受講生からの評価

1. 映像講義
2. ワークショップ
3. 自己研修

■ 成果と課題

1. 成果と課題
2. 外部評価委員



■ 事業概要（初任者研修の目的）



日振協
日本語教師
初任者研修

日振協・初任者研修2024のカリキュラム概要 ＜研修のテーマ＞

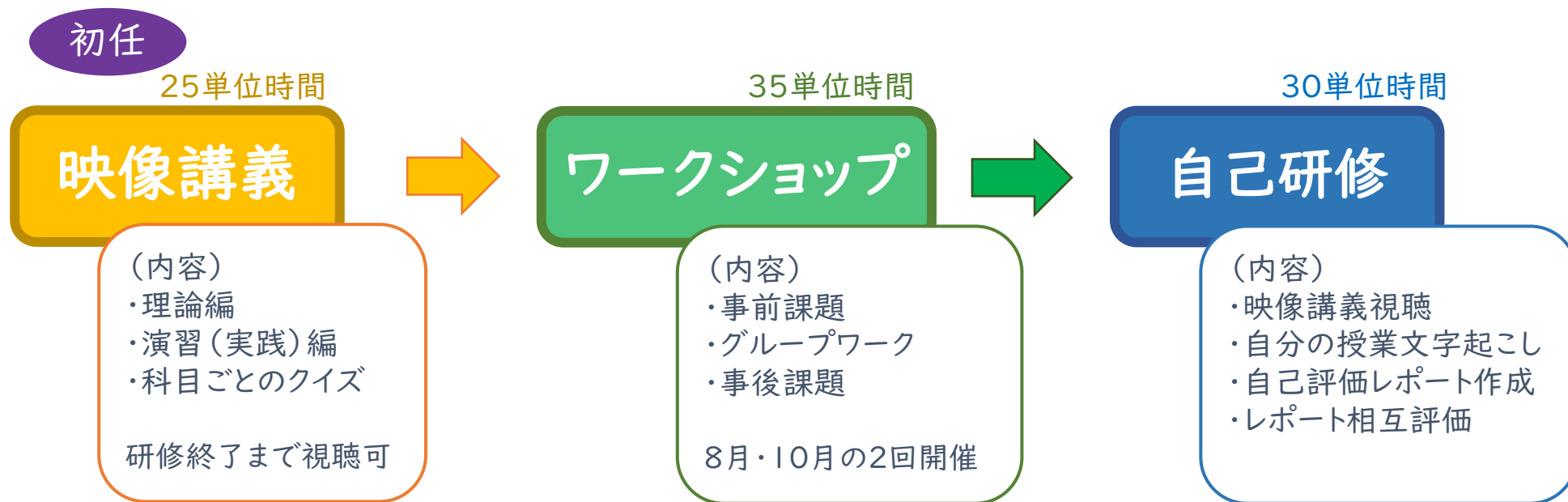


Development

- 21世紀型日本語教師としてのレベルアップ
 - 教室内外でデジタルツールや教育テクノロジーを活用する能力
 - キャリアビジョンの下、持続的な自己成長を目指す姿勢
 - 必要な知識理論を備え、現場の問題解決や意思決定が行える



■ 事業概要（取組の内容）



Discord内で、フルオンラインながらいつでもグループメンバーやメンターと話し合いや相談ができる環境を提供

育成

※研修を通してグループメンバーへのフォロー、下記以外にオリエンテーション、ワークショップ等の運営準備会議に出席

専門講義

(この期間の活動)

- ・育成者としての専門講義出席
- ・Discordでのチームビルディング
- ・初任と同じ映像講義

ワークショップ

(この期間の活動)

- ・事前のグループ活動
- ・事後グループ活動
- ・レポート採点

自己研修

(この期間の活動)

- ・初任者の自己チェック等のフィードバック



事業概要（実施体制）



Development

日振協
日本語教師
初任者研修

研修全体の組織図

評価

評価委員会

運営

外部委員
(教育学の専門家)

初任研修
実施委員会

委員長 保坂敏子
日本大学大学院教授
日本語学校12名 他1名

日振協
事務局

ICTチーム

育成研修
実施委員

初任研修
実施委員

育成研修

育成研修
受講者

将来は運営側に

初任研修

初任研修
受講者

メンター

■ 事業概要（実施委員の構成）

委員長	保坂 敏子	日本大学大学院 総合社会情報研究科	教授
初任者研修リーダー	山本 弘子	カイ日本語スクール	代表
初任者研修リーダー	佐久間 みのり	(学)石川学園横浜デザイン学院 日本語学科	教務主任
初任者研修リーダー	中島 正恵	岡山外語学院	教務主任
育成研修リーダー	森下 明子	岡山外語学院	副理事長
育成研修リーダー	大野 貴子	ノースリバー日本語スクール	校長
育成研修リーダー	伊藤 裕	アジア日本語学院	教務主任
委員	渡辺 寛成	HGI日本語学院	専任教員
委員	野口 亮子	大阪YMCA国際専門学校	教務主任
委員	道上 陽介	専門学校アリス学園	副校長／教務主任
委員	北 琢磨	東京明生日本語学院	学院長
委員	正多 宏美	一般財団法人 海外産業人材育成協会	日本語講師
委員	鈴木 克明	武蔵野大学 響学センター	教授
委員	日比野 早紀	長野平青学園 日本語科	教務主任



■ 各研修の概要（研修の狙い・特徴）

「日本語教育人材の養成・研修の在り方について（報告）」に示された「日本語教師【初任】（留学生）研修における教育内容」を軸に「実践的能力」として次の3つの資質・能力の養成に裨益することを目的としている。

- ①自律的・持続的な成長力（自律性、持続性、教師オートノミー、経験学習）
- ②対話力（教師間協働、学習者への対応、問題解決力、対人スキル）
- ③専門性（専門的知識、実践力、実践の帰納的・演繹的な分析力）

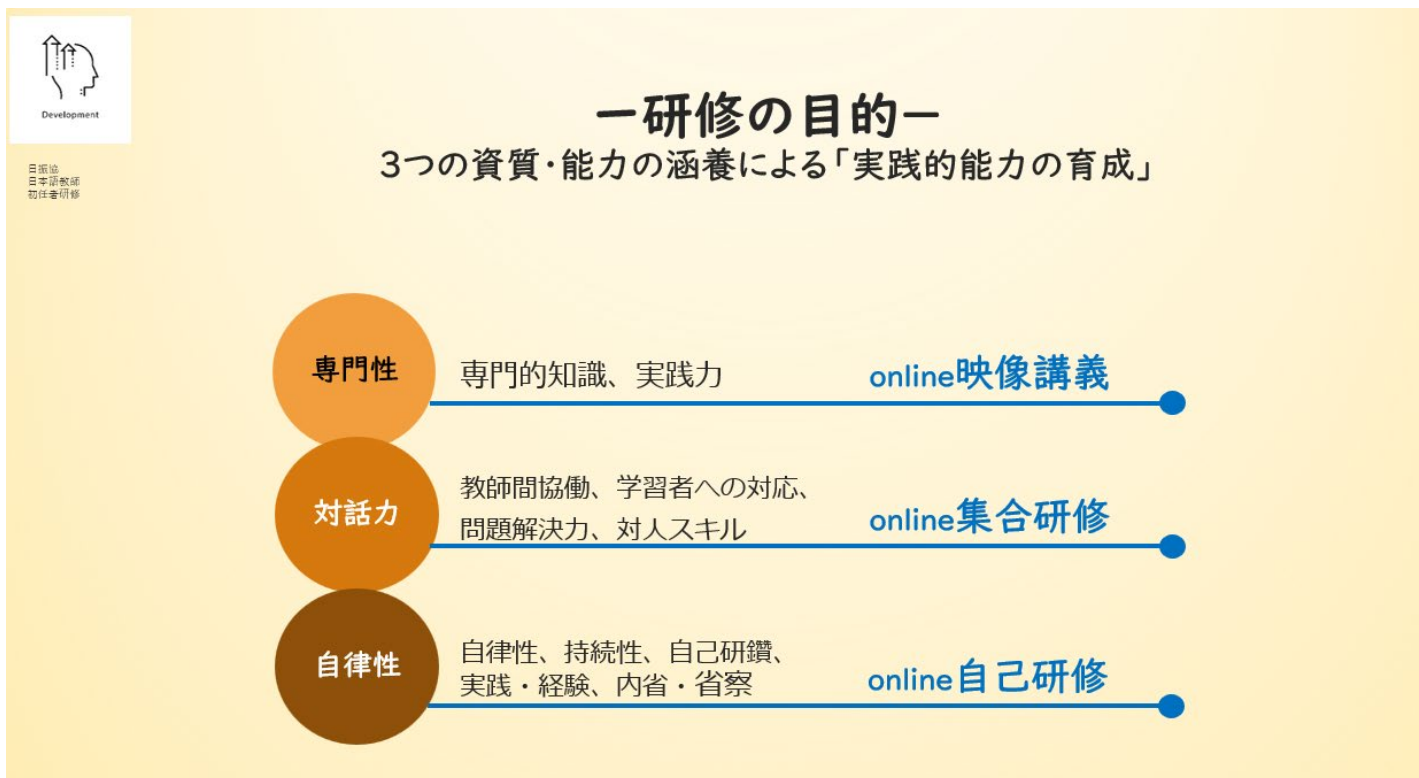
この研修は「オンライン映像講義」と「オンライン集合研修」と「オンライン自己研修（自律的学習）」の三位一体の編成となっていることが大きな特徴である。日々業務に追われている受講者も、オンライン集合研修以外は、空いている時間を利用して研修に取り組むことができる。この3種類の研修を受講することにより自律的に学び続ける力が養成される。



■ 各研修の概要（求められる資質・能力と研修における教育内容の関係）

本研修は、下記の図のように「専門性」「対話力」「自律性」の三位一体のプログラムにより、総合的に「実践的能力の育成」を目指したものとなっている。

その内容は平成31年度報告に準拠しており、知識・技能・態度で求められる資質・能力の向上に裨益するものである。





■ 各研修の概要（実施スケジュール・内容・教育方法）

初任受講者

I. 映像講義

視聴とクイズ回答

	方法	●必須 ▲任意	授業項目	サブタイトル	時間	担当講師
1	オンライン	●	日本語教育・日本語教育機関の変遷	言語教育界のパラダイム・シフトをめぐって	0:45	西原鈴子
2	オンライン	▲	日本の留学生政策と現状	留学生政策と日本語教育の位置付け、留学生	0:37	佐藤由利子
3	オンライン	●	日本語教育機関の歴史と現状	日本語教育機関の変遷と現状	1:03	佐藤次郎
	オンライン			日本の留学生受け入れ施策－留学生の入国と	0:52	高山泰
4	オンライン	●	日本語留学生の背景	モチベーションと教育制度Ⅰ（学生の背景	0:43	奥田純子
				モチベーションと教育制度Ⅱ（東南アジア	0:52	亀田美保 山本弘子
5	オンライン	▲	日本語の試験	日本語のテストの目的	0:32	伊東祐郎
				テストの役割と機能	0:54	
6	オンライン	▲	進路選択関連情報	キャリア教育とは	0:47	工藤尚美
				留学生への進路支援	0:46	
7	オンライン	●	留学生の異文化受容・適応とその支援	留学生の葛藤、異文化受容・適応への理解	0:33	加賀美常美代
				留学生の予防的支援と危機介入	0:32	
8	オンライン	●	留学生のための教材・教具のリソース	教材・教具のリソースの種類と特徴	0:40	保坂敏子
				教材・教具としてのリソースの活用	0:45	
9	オンライン	●	著作権	著作権の内容	0:50	我妻潤子
				著作物の利用	0:55	
10	オンライン	▲	統計処理（テスト・評価・成績管理）	統計の基本	0:45	島田めぐみ
				テスト・評価・成績管理の統計処理	0:41	
11	オンライン	●	目的別指導法	担当レベルをよく知ろう	0:47	倉本文子
				授業に魅力を加えよう	0:53	
12	オンライン	●	話す・議論の指導法	初級から中級で養う「話す力」	0:39	柳田直美
				上級で養う「話す力」「議論する力」	0:43	
13	オンライン	●	作文・論文の指導法	論理的な文章作成のプランニング	0:47	高橋薫
				論理的な文章作成と推敲	0:46	
14	オンライン	●	教案作成	教案を書こう	0:54	倉本文子
15	オンライン	●	教材作成	学習者にあった教材を作る	0:45	藤本かおる
				授業にICTを取り入れてみよう	0:44	
				教材を評価し改良する	0:39	
16	オンライン	●	オンライン授業法	オンライン授業の基礎と注意点	0:40	藤本かおる
				オンライン授業の具体的なデザイン	0:59	
17	オンライン	●	評価法	学習者のパフォーマンスを評価する	0:42	高橋薫
				自分の授業を評価する	0:40	



■ 各研修の概要（実施スケジュール・内容・教育方法）

初任受講者

2. 集合研修(ワークショップ)

主な内容			講師
7月1日（土）	オリエンテーション①	・ 研修概要説明、実施体制、スケジュール	保坂敏子委員長他
13:30～17:00	（オンライン）	・ 【講演】日本語教育参照枠について	文部科学省（齊藤 千鶴日本語教育調査官）
		・ LMSの利用方法、オフィスアワー等の説明	ICTサポート
		・ 委員、育成メンバー紹介、グループでの自己紹介	育成（メンター）
7月15日（土）	オリエンテーション②	・ ICT講習（zoom、gacco、Discord等）	ICTサポート
13:30～17:30	（オンライン）	・ 【講義】ティーチングポートフォリオ	栗田佳代子先生
		TPチャート作成を通して目標を設定	（東京大学総合教育研究センター 副センター長）
8月31日（土）	ワークショップ①	・ 【初任者教員に求められる資質能力】	保坂敏子委員長他
14:00～17:00	（オンライン）	「日本語教師初任者（留学生）に求められる資質・能力」の 理解を深め、自己成長のためのアクションプランを立てる	
10月19日（土）	ワークショップ②	・ 【日本語教育の参照枠Can-doベースの授業のデザインと改善】	
14:00～17:00	（オンライン）	・ 【講義】メリルのID第一原理の例示・提示 生成AIが作成した教案をARCS、メリルのIDの知識を駆使し、 教案の改善、評価を行う	保坂敏子委員長、山本弘子委員

■ 各研修の概要（実施スケジュール・内容・教育方法）

初任受講者

3. 自己研修

		主な内容	講師
10月27日（日）	映像講義	演習（自己点検） ①教育実践についての内省（0:44） ②授業分析－前向きな振り返りのために－（0:49）	金田智子先生（学習院大学文学部教授）
10月27日（日）	自己点検実習	①自分の授業を録画、文字化する	－
～12月3日（火）	（職場、LMSに提出）	②分析の目的に合った手法を映像講義の分析観点から選ぶ ③選択した手法に沿って自分の授業を分析する ④分析結果をレポートにまとめる	
12月3日（火）	相互評価	他の受講者のレポートをルーブリックに従って採点	－
～12月17日（火）	（LMS上で実施）		

■ 各研修の概要（実施スケジュール・内容・教育方法）

育成受講者

1. 専門分野講義

方法	日程	科目	講師
オンライン	6月22日(土) 10:30～12:00	研修デザイン	鈴木克明(武蔵野大学響学開発センター教授)
オンライン	6月22日(土) 13:00～14:30	日本語教育の参照枠の理念と枠組み	奥村三菜子 (NPO法人YYJ・ゆるくてやさしい日本語のなかまたち副理事)
オンライン	7月13日(土) 10:30～12:00	授業におけるICT活用のための理論	保坂敏子(日本大学大学院総合社会情報研究科教授)
オンライン	7月13日(土) 13:00～14:30	著作権	我妻潤子(知財アナリスト、東京藝術大学非常勤講師)
オンライン	8月17日(土) 10:30～12:00	オンライン授業デザイン	藤本かおる(武蔵野大学グローバル学部日本語コミュニケーション学科 准教授)
オンライン	8月19日(土) 13:00～14:30	日本語教育の参照枠を活用したカリキュラムデザイン	佐久間みのり (石川学園横浜デザイン学院日本語学科教務主任)

2. ワークショップ運営準備会議参加

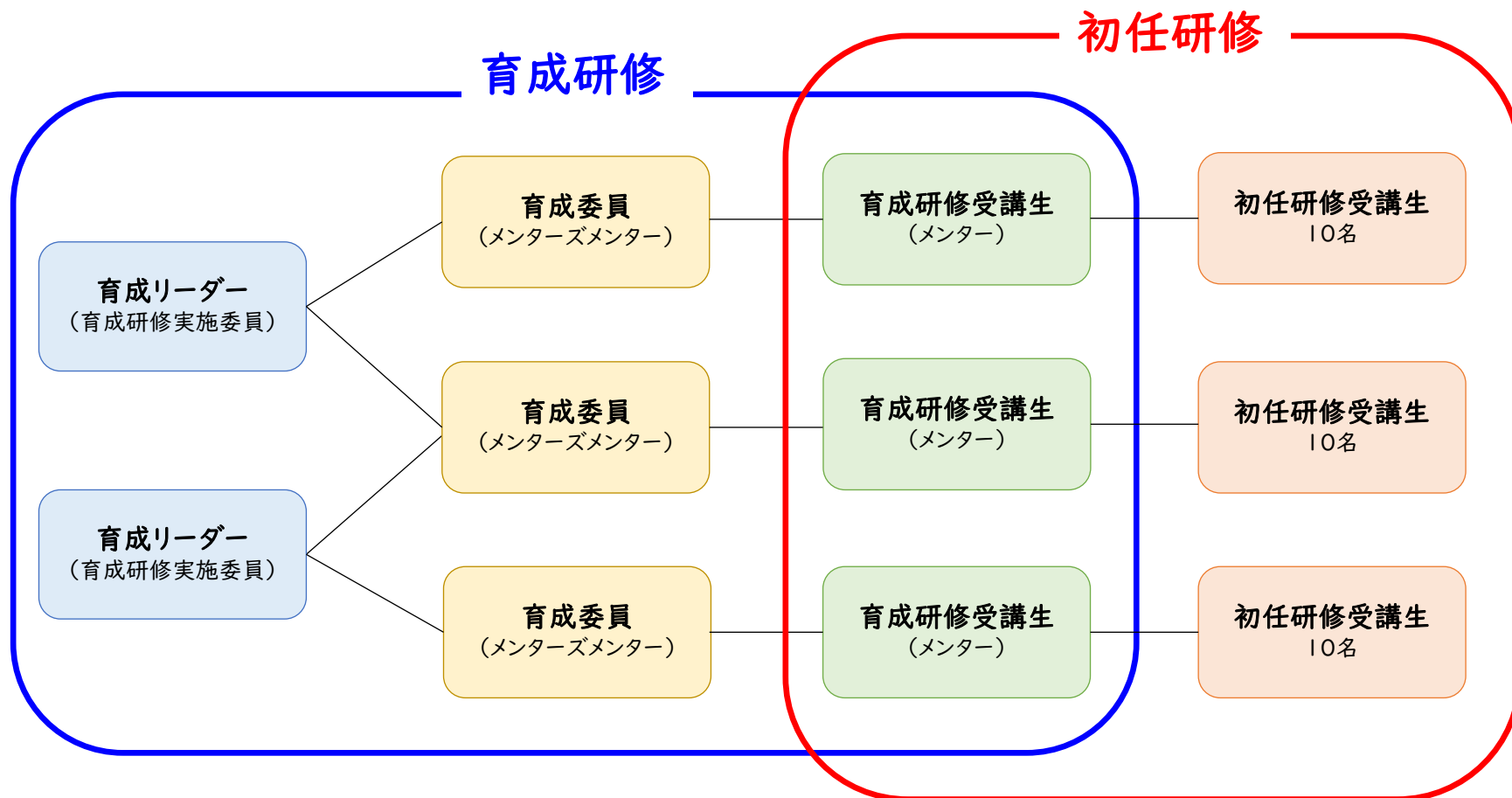
3. ワークショップ運営サポート(OJT)

■ 各研修の概要（連携体制）

研修実施体制

初任者を育成受講者がフォローし、育成受講者を育成委員がフォローする

＊ どちらの場合も自律的に動くのは、受講生です。



■ 各研修の概要（募集方法）

【募集方法】 チラシ・研修案内を作成し、各所へ配布

【募集期間】 令和6年4月～令和6年5月

【募集媒体】 日振協ウェブサイト、会員校ML、日振協研究大会参加者、関連学会出版社、実施委員の協力など

選ばれる日本語教師になろう！

日振協
日本語教師の養成及び現職日本語教師の研修事業文部科学省委託

Development

令和6年度
留学生に対する日本語教師
初任研修

文部科学省
NISHINKYO

- フルオンライン研修で様々なICTツールの適切な活用について学べるチャンス
- 期間中は一流の講師陣による映像講義115本繰返し視聴可能
- 日本語教育の参照枠をしっかりと学び、教師としてレベルアップ
- 全国の教師と連携・協力することで他者とながら意味を学べる
- 修了者が認定されると文部科学省HPの修了者リストに名前が載る（任意）

受講期間 2024年6月29日(土)～2025年1月31日(金)
(90単位時間履修)

申込締切 5月24日(金) 17:00

対象・募集人数 告示校に採用されて原則3年以内の方 100名

受講料 15,000円 別途教材費が3,000円かかります(いずれも消費税込)

お申込前に研修案内をお読みください。 <https://www.nishinkyo.org>
お問い合わせ nishinkyoshonin@gmail.com
一般財団法人日本語教育振興協会



OJTで研修運営のノウハウを身につけよう

日振協
日本語教師育成事業文部科学省委託

Good Enough

令和6年度
初任者育成研修

文部科学省
NISHINKYO

- 研修を通して新人研修の組み立て方や運営方法を学べる
- 初任者教師の学びの支援を実践できる
- 日本語教育の参照枠に沿った最新の教育方針を学べる
- 全国の同じ立場の仲間とつながることができる
- 修了者は未来の初任者研修実施委員の可能性もある

新人研修に必要ない実務能力に特化した分野の一流講師による生の講義

ファシリテーションを経験しながら学べる(OJT)

ICTを使った教師研修の運営方法が学べる

初任者研修の一流講師陣による映像講義115本全て視聴無料

受講期間 2024年6月12日(水)～2025年1月31日(水)
(40単位時間履修)

申込締切 5月24日(金) 17:00 書類選考後面接(5月28日 19:00～20:00)

対象・募集人数 告示校に専任教員として10年程度勤務している方、Zoomに慣れている方。受講生のサポートをするためICT能力の高い方が望ましい。フルオンライン研修につき、全国からの応募歓迎。10名

受講料 無料 初任者研修における指導補助謝金と会議出席謝金を支給

申込詳細 <https://www.nishinkyo.org> または右記QRコード
お問い合わせ nishinkyoshonin@gmail.com
一般財団法人日本語教育振興協会





■ 各研修の概要（初任受講者データ）

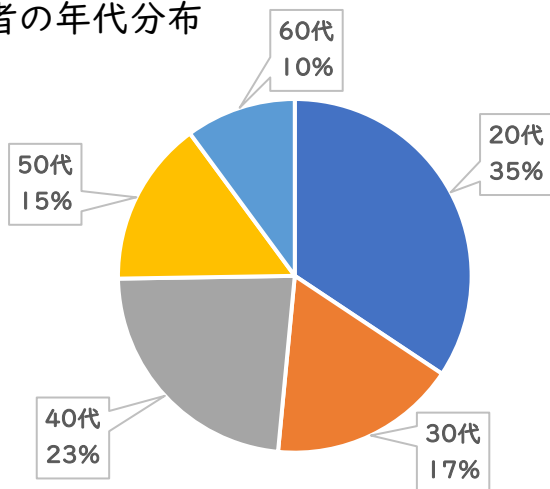


募集：100名

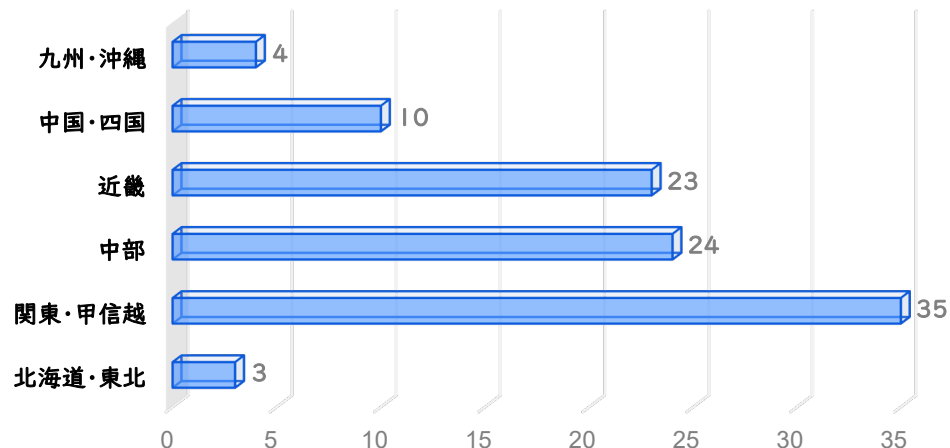
受講者数：99名

修了者：89名

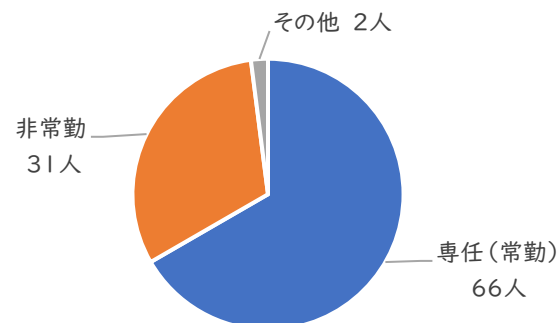
受講者の年代分布



地区別受講者数



勤務形態

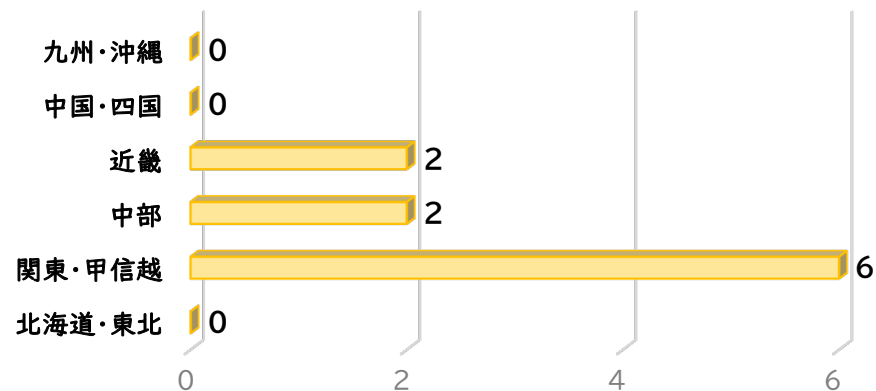


■ 各研修の概要（育成受講者データ）

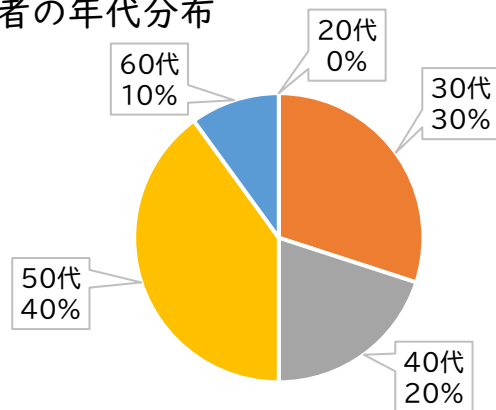


募集： 10名
受講者数：10名
修了者： 10名

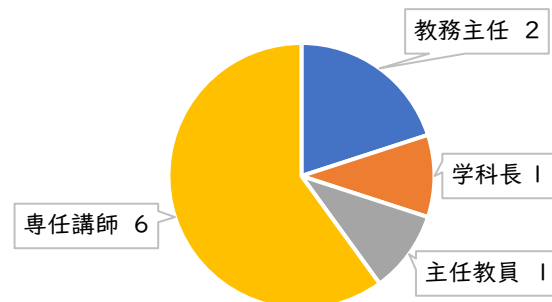
地区別（育成）受講者数



受講者の年代分布



所属機関での役割





■ 各研修の概要（修了要件・修了率）

初任者研修

修了率 94.7%

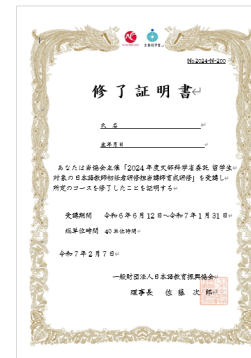


【修了要件】

- 全ての講義を履修（全てオンライン）
（①映像講義、②集合研修、③自己研修）
- クイズ・課題提出・出席・相互評価
- ①②で100点中70点以上、③で相互評価の中央値70点以上を取得すること

育成研修

修了率 100%



【修了要件】

- 専門分野オンライン講義（同期）を履修、課題を提出
- 集合研修運営準備会議への参加と参加日誌の提出
- 集合研修への参加（OJT）、参加日誌提出と初任者のレポート採点
- 全体の70%以上を取得すること

■ 各研修の概要（研修の様子－映像講義）

LMS【gacco】による オンライン講義



文化庁委託
日振協
日本語教師
初任者研修



NISSHINKYO

自己研修

開講中 受講中

開講日：2024年10月20日 00:00 JST
閉講日：2025年2月28日 23:59 JST



文化庁委託
日振協
日本語教師
初任者研修



NISSHINKYO

オンライン映像講義

開講中 受講中

開講日：2024年6月30日 00:00 JST
閉講日：2025年1月1日 00:00 JST



文化庁委託
日振協
日本語教師
初任者研修



NISSHINKYO

オンライン集合研修

開講中 受講中

開講日：2024年9月1日 00:00 JST
閉講日：2025年1月31日 23:59 JST

オンライン映像講義①（理論編）

8. 留学生のための教材・教具のソース ①教材・教具のソースの種類と特徴

映像教材（講義）

Step.1



教材・教具とは

- ・教材 狭い定義：授業で伝える教育内容を具体化した材料
広い定義：人と人の間で作り出される教育関係の中で、内容の伝達を行うための媒体となるもの
- ・教具 教育内容や学習情報を運ぶための道具
- ・なぜ「教材・教具」か？
→ 区別は教育目標の立て方による
→ どこまでが「教材」？ どこからが「教具」？



図1 教材・教具の区別

定義を見てみましょう
教材とは教育活動を
授業に限定した場合
一般的に授業で伝える教育内容を
具現化した材料という
狭い定義になります
しかし現在学習者は
主体的に学習を進める存在であり
教育は学習者の主体的な学習活動を
支援するものだ
と考えられるようになっていきます
教育をそのように捉えた場合
教材は人と人の間で作り出される

映像教材（クイズ）

オンライン映像講義①（理論編）

1. 日本語教育・日本語教育機関の変遷 言語教育界のパラダイム・シフトをめぐって

問題1 (1.3/1.3 満点)

いまの言語学習・教育が目指すゴールを表すキーワードで一番適切なのはどれですか。

- ☐ 良い人間関係の構築
- ☒ 学習者のグローバルな人生設計 ✓
- ☐ 正確なことば遣いの習得

提出 提出済 提出された回答は正解・提出期間は終了しました 全2回の内1回 提出済です 解答を見る

※上記は「平成30年度文化庁日本語教育人材養成研修カリキュラム等開発事業」で作成した日振協オリジナル教材です。



■ 各研修の概要（研修の様子－ワークショップ①）

ワークショップ① 「初任者教員に求められる資質・能力」	
日程	2024年8月31日(土) 14:00-17:00 (ZOOM)
事前課題	・「初任に求められる資質・能力」17項目全てをリフレイジングし提出、グループで話し合い、理解を深めておく ・映像講義「理論編」の事前視聴（推奨）
ワークショップ①の趣旨	(1) 映像講義「理論編」の受講を振り返る。 (2) 初任に求められる資質・能力を理解する。 (3) 自己成長のための、アクションプランを立てる。 (4) 長期目標を考えて、共有する。
ワークショップ①のゴール	●映像教材で得た知識と現場経験を土台に、初任に求められる資質・能力の具体的なビジョンを持つ。 ●自己の課題が明確になり、目標が定まる。 ●成長のためのアクションプランができる。
事後課題	・ワークシートを基に、長期目標とアクションプランをレポートとしてまとめて提出 ・メンター（育成受講者）がレポートをルーブリック評価する



■ 各研修の概要（研修の様子－ワークショップ②）

ワークショップ② 「日本語教育の参照枠 Can-do ベースの授業デザインと改善」	
日程	2024 年 10 月 19 日 (土) 14:00-17:00 (ZOOM)
事前課題	・AI 作成の教案の中から、WS で取り上げたい教案を決め、グループ内で話し合う ・「日本語教育の参照枠」理解のための動画を視聴しておく ・メルル ID 第一原理の資料を読んで理解する ・映像講義「実践編」の事前視聴（推奨）
ワークショップ②の趣旨	(1) 映像講義（理論・実践編）の内容を振り返る (2) 参照枠の理解と実践への適応ができる (3) ICT の理論や技術を活用する
ワークショップ②のゴール	●日本語教育の参照枠をもとにした Can-do ベースの授業がデザインできる ●メルルの ID 第一原理や映像講義で学んだ ARCS モデル、ICT を組み込みながら教師としての課題解決ができる
事後課題	・グループで話し合っ修正した教案（最終版）を Padlet に掲示、メンター（育成受講生）によるフィードバック ・修正を加えた教案を基に、自分の授業に即した教案を作成、提出



■ 各研修の概要（研修の様子－ワークショップ②）

STEP 1. グループビルディング
(グループ内の小グループ)

司会・書記は決めてあります
か？

メンターは小グループに
交互に入りますが
基本的には受講者のみなさん
が中心となって進めます。

小グループ 小グループ 小グループ

グループワーク①では

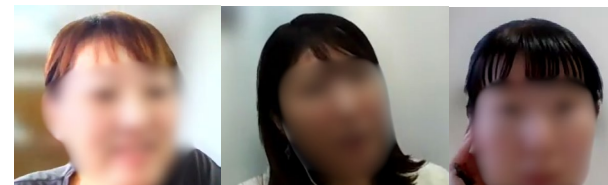
生成AIが作成した授業案をたたき台として、
日本語教育の参照枠の事前映像講義と
メリルのID第一原理の視点から
授業案をReデザインしましょう！

グループワーク
での話し合い

**最後に今日の話し合いを踏まえて、
自分の教案を作成してみましょう**

事後課題

グループで作成した
ワークシート



日振協 日本語教師（留学生）初任者研修
第2回オンラインワークショップ（2024年10月19日）ミ

**「日本語教育の参照枠」
「メリルのID第一原理」**

日振協 初任者研修運営委員長
日本大学大学院 総合社会情報研究科
保坂敏子

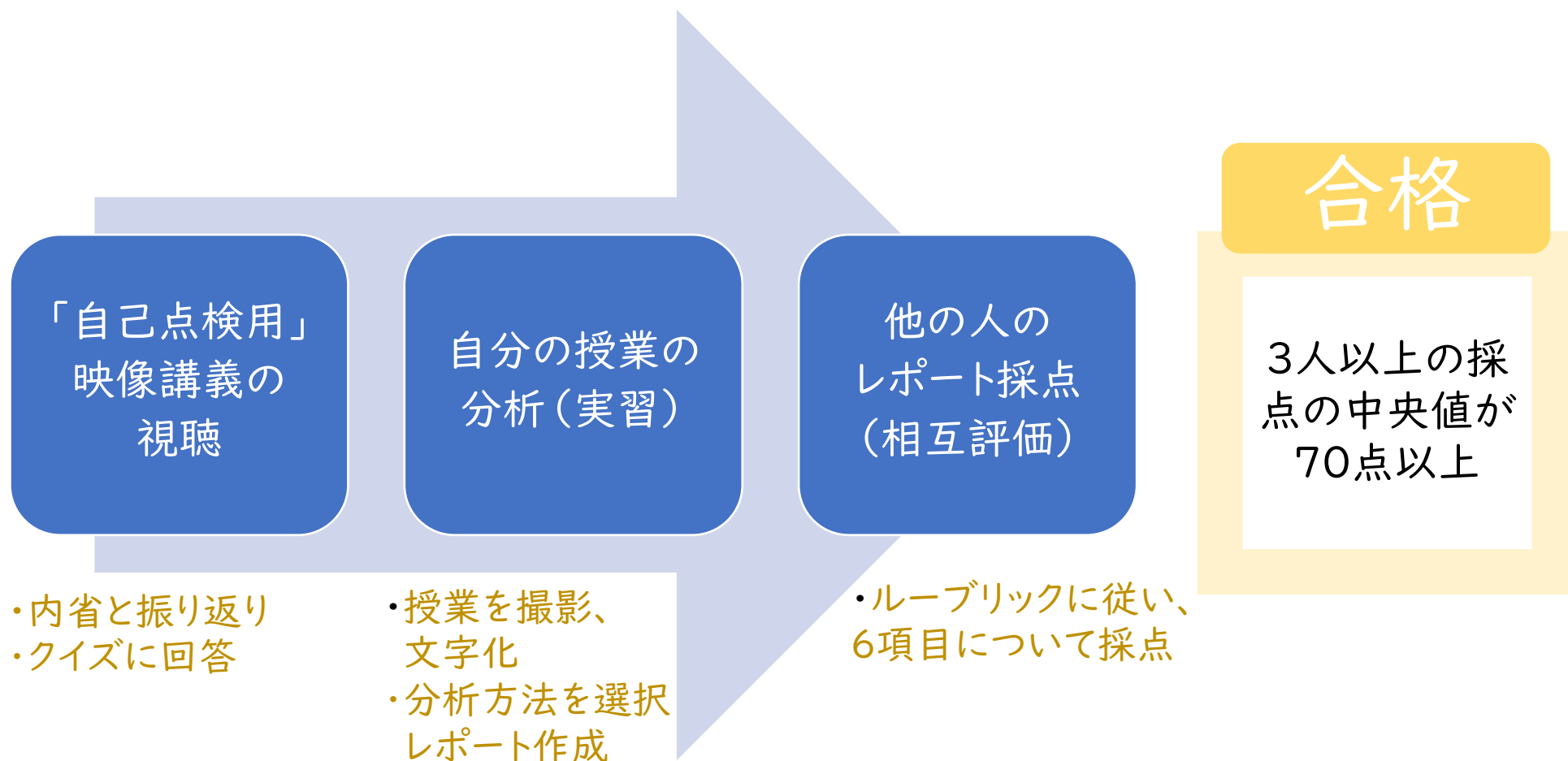
自律的・持続的な成長のために

学習者も教師も自律的に学んでいく時代です。
今日のオンラインワークショップ②の学びのまとめとして
自分自身でワークシートをもとに教案を作成・自己評価してみ
ましょう。

※ワークショップの内容に多少追加・修正をしてもいいです。



■ 各研修の概要（研修の様子－自己研修）



*中央値…データを大きい順に並べた場合の中央の値



■ 各研修の概要（研修中のICTサポート）

ICTサポート



オフィスアワー（週2回程度 20:00-22:00）

- ・ ICTスキルの向上及びサポートを希望者に実施



LMSの管理、運営サポート

- ・ 技術サポートの専門家チームが管理、質問にも対応



■ 各研修の概要（研修中の連絡ツール）

Discord（コミュニケーションツール）

研修の情報（受講者、委員、育成、事務局）は全てここに集約

グループチャンネル

- ・ワークショップ事前・事後活動
- ・いつでもやり取りや話し合いが可能

ICT問い合わせ チャンネル

- ・オフィスアワーを利用できない人は
ここでいつでも質問ができる

ダイレクトメール

- ・個人への連絡はDMで

各種お知らせや 資料の共有

- ・ワークショップのURL
- ・案内や課題の共有



■ 各研修の概要（研修中の交流イベント）

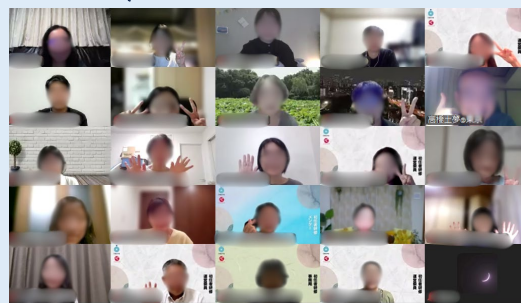
コミュニケーションイベント

ポスター

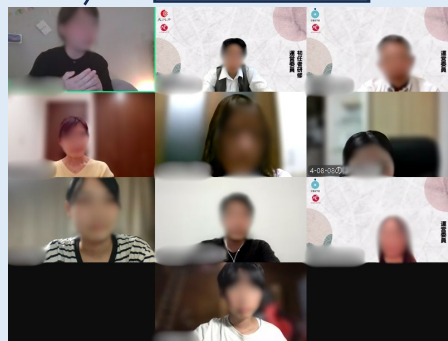


トピック別 ブレックルーム

漢字の授業例



その他雑談



実施後のコメント

とても楽しかった。皆様の
元気をもらった

「もっと話したい!」というこ
ろで終わったのでちょうど
よかった

トピックはもっと少なくても
よかったと思う

企画・運営、非常に満足。
司会がいたらもっと話し合い
が活発になると思う



■ 各研修の概要（研修修了者へのフォロー）

修了者ネットワーク



日本語教育の情報提供の場

- ・LINEオープンチャットでこれまでの修了者が参加
- ・実施委員から新刊や文科省の発表、留学生に
お得な情報などを配信

情報発信が主でやりとりはDiscordで。
修了者もイベントに参加し受講者と交流



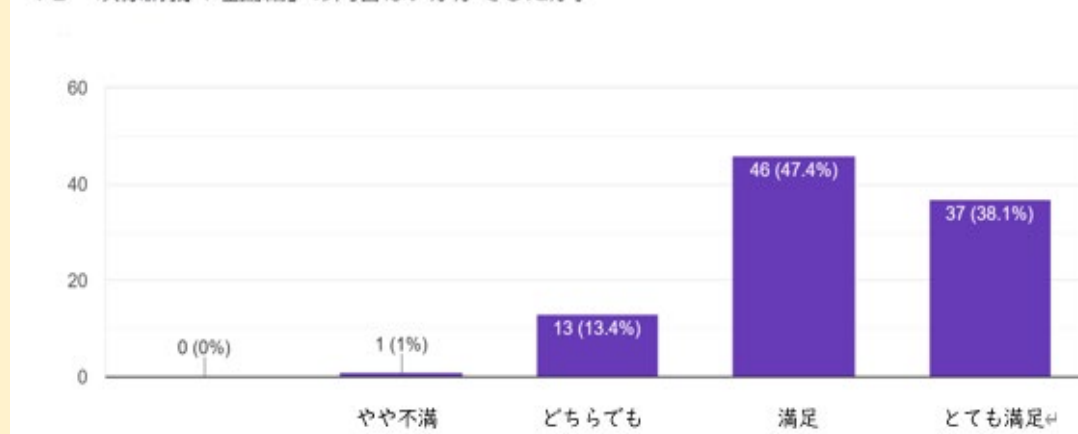
■ 受講生からの評価

「映像講義」の評価

(ワークショップ①終了時)

85%以上が満足・とても満足という結果になった

1-2 映像講義「理論編」の内容はいかがでしたか。



◆コメント

- ・ 学生たちの今の国の情勢、ニュースなどはチェックしているが、教育制度などを調べて勉強したことがなかったので、学生のことを知る上で役に立つ講義だった。
- ・ 日本語の試験について体系的に説明があってよかった。目的に応じた偏りのない試験問題作成の参考になった。
- ・ 「留学生の異文化受容・適応とその支援」では、入学時よりモチベーションが落ちる学生がいた場合、ストレス等の可能性も考えて様子を見なければならなかったと感じた。
- ・ 「教材・教具のリソース」で具体的なサイトの紹介があり、実際の授業で活用できそうな内容だと思った。
- ・ 「著作権」の講義は、内容が簡潔でわかりやすく、私自身も必要性を感じていたので、大変勉強になった。
- ・ 「統計処理」では小規模テストの分析や相関関係の把握の重要性を再確認することができた。



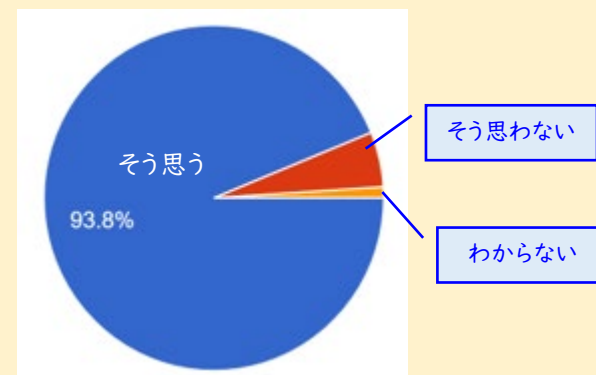
■ 受講生からの評価

オンラインワークショップ① 「初任者教員に求められる 資質・能力」

教師の資質・能力について、考える機会
となったか。



他の学校の教師との交流ができたか。



◆コメント

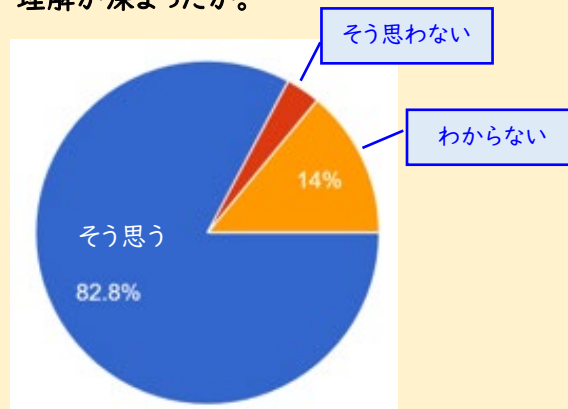
- ・ 具体的に自分事として捉えることが必要だと思った。教師として自分自身が自律学習を進めていかないといけないと感じた。
- ・ 初任者といえども、プロであることには変わりないので、経験ある教師と同じような能力を身につけなければならないことを再認識した。
- ・ まだ自分で計画を立て、実践に移せてないことが多いことに気づいた。今後はきちんと計画を立て、発信していきたい。
- ・ 他者との対話による自分の気づきを改めて理解できた。学生と一緒に成長し続ける教師でいたいと思った。
- ・ リフレイジングで自分では気づかなかった概念・視点を見つけることができた。
- ・ 詳しい資質・能力について考えることができ、今後の自身の視点に深みが出てくると思った。



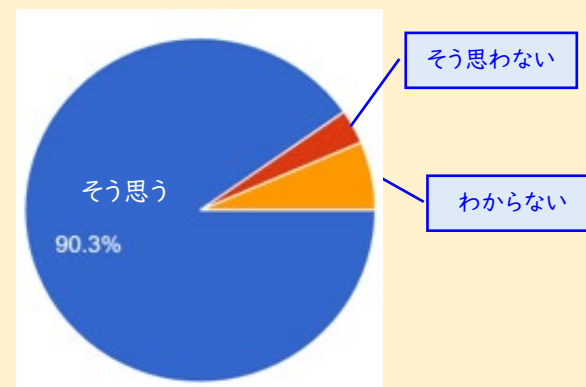
■ 受講生からの評価

オンラインワークショップ② 「日本語教育の参照枠 Can-doベースの授業の デザインと改善」

「日本語教育の参照枠」についての
理解が深まったか。



「ARCSモデル」の要素を考慮した授業案の
改善ができたか。



◆コメント

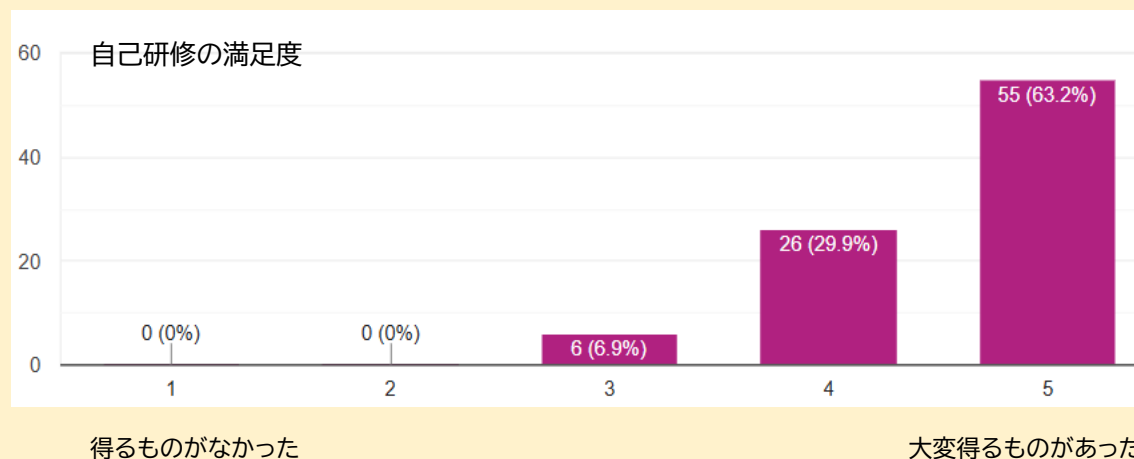
- ・ 同じ立場の先生方と協力しながら授業やカリキュラムについて考える機会がなく、話し合いながら修正、立案していく過程が初めてだった。そこで新しい活動や私の考えの修正点を指摘いただくことが非常に有意義だと感じた。
- ・ 映像講義+ワークショップで実際に教案を見つけ直し組み立てることを通して、日々の授業にも今から少しずつ取り入れられるのだと実感することができた。
- ・ 今後、実際の授業をARCSモデルやICTなどの観点で改善していきたいと思った。教案をいろんな観点で考えることで過不足がよくわかった。
- ・ 教案について、振り返ったり、改善するときの視点を得ることができた。メリルのID第一原理やARCSモデルも互いに共鳴合っていることもわかった。
- ・ 少人数で意見交換できたので、とても建設的な話し合いができた。



■ 受講生からの評価

「自己研修」の評価

92%の人が得るものがあったと回答

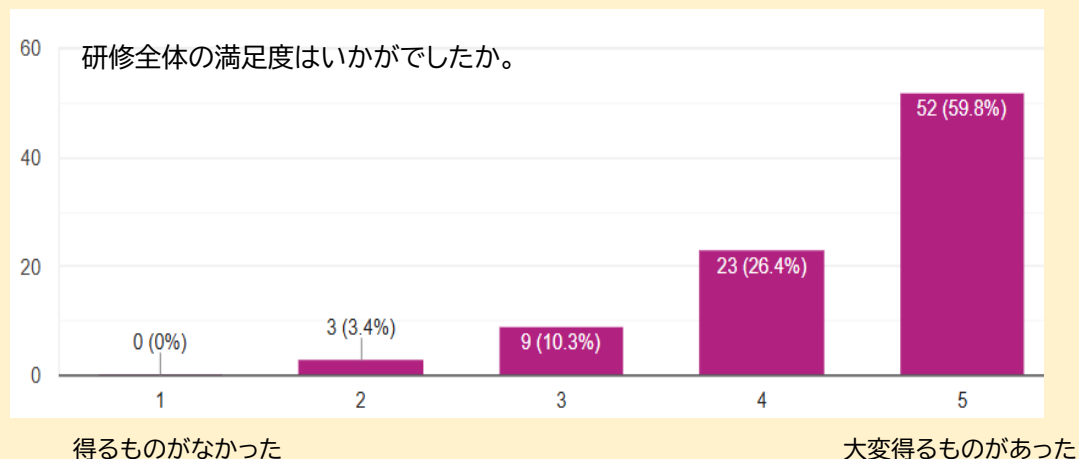


◆コメント

- ・ 今までほとんどやってこなかった授業分析で、自分の癖や、クラス内で課題だと考えていたことの原因の一つを考察することができた。学習者全体への問いかけが少ないことが課題だとわかったので、今後は問いかけを増やすことを意識しようと考えている。
- ・ フィードバックを客観的に見て行うことでさまざまな課題が自分の授業にあることを改めて感じた。
- ・ 自身の授業を振り返りたいと思いつつも、なかなか振り返りの時間が確保できていなかったため、今回その機会をいただけて有意義なものとなった。
- ・ 自分の授業を録画して分析する研修は、振り返りの機会として大変良かった。
- ・ 数値で分析したことがなかったので、面白かったし、今後も活用できると感じた。
- ・ 自分の授業の実際がわかり、気づきや学びがたくさんあった。



■ 成果と課題



成果

1. 研修内容の満足度

アンケートの結果から、研修全体についての満足度が高いことがわかる。実際の授業に役立つ知識を得られた、授業分析のやり方が身に付いたなどの授業に関することだけでなく、他校の教師とつながること、初任者同士の悩みの共有などができたなどの横のつながりに対する評価も高かった。

2. 修了率の高さ

修了要件を満たした受講者は89名で、未修了となった受講者も研修の最終段階までは受講を進めていた。委員や育成受講者による要所での受講者のフォローもあり、このような成果が出せたと思われる。この研修が目標としている自律性を育てるという体制も後押しした結果といえる。



■ 成果と課題

成果

3. 映像講義の改訂

制度の変更や名称、各国留学生の状況など内容の更新が必要な映像教材の改訂を行い、現状に即したものに変更した。実際の授業に役立つ内容であり、受講生から好評を得ることができた。

(改訂部分: 日本語教育・日本語教育機関の変遷、日本の留学生政策と現状、著作権、キャリア教育、作文・論文の指導法、評価法、目的別指導法、教材作成、オンライン授業法)

4. 資質・能力に関する自己評価の実施

留学生に対する日本語教師【初任】に求められる資質・能力アンケートを研修前後で行い、自己評価してもらった。その結果でみると、各項目ともほとんどの受講者に改善が見られた。さらに、育成受講者がその結果に基づいたフィードバックを行い、客観的な評価も合わせて行われた。

課題

1. LMS(gacco)不具合による研修への影響

映像講義の改訂の影響もあり、LMS(gacco)の公開が遅れてしまった。また、成績の照会ができない等の不具合も生じた。不測の事態もあるが、運営側からの状況説明など、受講者の混乱がないように迅速に対応していく必要がある。

2. 情報の共有

運営側で集合研修の内容や当日の進行について会議が行われており、情報が共有されているはずであったが実際には内容の理解度によりファシリテートにばらつきが生じてしまった。初任受講者への告知もDiscordで行われているので見逃してしまう人も多く、情報の共有が難しかった。必要な情報を自主的に取得できるような方法の導入も検討すべきである。



■ 成果と課題

評価委員会

4名の外部委員による事業評価委員会を組織し、2回（1, 2月）の評価委員会を開催した。

- 委員長：加藤早苗（インターカルト日本語学校 校長）
- 委員：佐々木倫子（桜美林大学 名誉教授）
- 委員：西原鈴子（NPO法人 日本語教育研究所 理事長）
- 委員：西郡仁朗（東京都立大学 名誉教授）

<成果>

- ・ 東京以外の地域からの受講者の割合が高く、全行程をオンラインで行うことの利点が活かされている。これは地域格差の解消に寄与するものであり、普及事業としての成果を示したといえる。
- ・ 受講者からのコメントを見ても、満足度が高いことがわかる。研修を通して初任者が横のつながりを作り、情報や悩みを共有できる場となっていたことはすばらしい。



■ 成果と課題

<成果>

- ・ アンケート結果から研修後に自分の成長を感じている受講者も多く、実際の分析結果からも著しい伸びが確認できた。研修の中で「態度」を評価することは難しいが、一つの指針にはなる。得たことが自信となり、現場に落とし込んでもらえることを期待したい。

<課題>

▶ 持続可能な事業とするために、

- ・ より多くの受講者を受け入れることを想定し、研修の内容をスリム化していく必要がある。もっと効率よく多くの人が研修を受けられるような体制を整え、研修の設計をする。
- ・ コストパフォーマンスを維持しながら、運営側の負担を軽減し、全員が無理のないような形で研修を実施できる体制の構築を考える。